「日本藝術の創跡」の軌跡

1995–2022

「日本藝術の創跡」の軌跡

1995　美術界のパイオニア、植村鷹千代氏総監修のもと創刊号発刊

1996　大好評につきシリーズ化決定

1997　全国主要画廊へ永久収蔵

1998　全国一斉発売開始

2000　海外主要美術館への収蔵開始

ホテルニューオータニ（東京・大阪）スイートルーム、エールフランス航空等、航空会社数社でも美術専門書として活用される。

2001　AJCオークション協力

日本随一のオークション会社、AJCオークションより現在の美術市場における貴重な資料提供を受け、専門的な見地から、芸術の方向性を探る。

2002　NHKが協力

NHK（日本放送協会）の参加により多面的な美術動向を紹介。
NHKマルチメディア局データ情報へ保管される。

クイーンエリザベスII世号、にっぽん丸等、世界の豪華客船へ美術専門書として収められる。

2003　産経、日本経済、毎日、読売新聞社による協力

美術界に金字塔を打ち立て、『日本藝術の創跡』の総監修を務められた故、植村鷹千代先生の遺志を継ぎ、日本藝術院長（現顧問）犬丸直氏のご協力を仰ぎ、新たなる道へと歩み始める。

▲日動画廊
日動画廊はじめ全国主要画廊へ現在の美術界の指針として収められる

▲アテネ国立考古学博物館

▲大英博物館

▲植村鷹千代氏

▲犬丸直氏
（日本藝術院顧問　文化庁長官）

▲ホテルニューオータニ（東京）

▲エールフランス

▲クイーンエリザベスII世号

▲AJCオークション

クイーンエリザベスII世号船内図書室にて、
本画集を手にする図書館員

「日本藝術の創跡」の軌跡

2004 **文化財保護の歴史を遡る**

国立博物館、正倉院の関係者が、文化財の歴史を紹介。
数多くの国宝・重要文化財を掲載した豪華版。

2005 **シリーズ第10巻を発刊**

好評のシリーズが10巻を迎え、南極昭和基地にも収蔵が決定。

米国で現存最古の美術アカデミー「ペンシルヴァニア美術アカデミー」が協力

2006 **全国の芸術大学に収蔵**

国内の主要芸術大学へ、研究資料として配布、収蔵を開始。

バロック期の名画を数多く収蔵する、ダリッヂ美術館（イギリス）主任学芸員が執筆協力

2007 **世界各国の美術館の成り立ちを紹介**

2008 **国際美術評論家連盟による寄稿**

植村鷹千代氏の没後10周年を機に国際美術評論家連盟と、
その日本支部会長であり屈指の美術評論家、針生一郎氏を執筆者に迎え、
評論が芸術界に及ぼした影響などを検証。

2009 **東洋美術の殿堂へ収蔵**

フランス国立ギメ東洋美術館の研究員が執筆。
美術館図書館、館長室に収蔵。

2010 **パリ主要画廊への寄贈が決定 イタリアの著名修復家グイド・ニコラ氏が協力**

ダ・ヴィンチ《岩窟の聖母》をはじめ様々な名画を修復し、NHKでも特集が組まれた
天才修復家グイド・ニコラ。その工房により書き下ろされた貴重な評論文を掲載。

▲ペンシルヴァニア美術アカデミー

▲パリ市立近代美術館

▲南極昭和基地

▲ダリッヂ美術館

▲フランス国立ギメ東洋美術館

▲ニコラ工房にて《聖マルコの遺体の発見》の分析を行なう様子

2011　世界各国より芸術に精通する特別監修者が協力
総監修を務めていただいた犬丸直氏の追悼特集
を掲載

わが国の文化芸術の発展振興に尽力された犬丸直氏（2010年逝去）の足跡を紹介。

2012　海外監修者ジュリー・バウィン氏（ベルギー）
ルート・プリーム氏（オランダ）が
「日本の美」をテーマに論文を寄稿

2013　海外監修者ルート・プリーム氏（オランダ）が
「20世紀美術」について論文を寄稿し、
オランダのユトレヒト中央博物館に本書を収蔵

『日本藝術の創跡 18』を
モナコ大公アルベール2世に献上!

2014　掲載作家の作品を収めた電子書籍
『日本芸術家撰集1』を配信

（Amazon Kindle ストア／紀伊國屋BookWebPlus ／Sony Reader Store／
セブンネットショッピング／Yahoo!ブックストア　ほか）

スイスで開催される
「ART INTERNATIONAL ZURICH 2014」にて
『日本藝術の創跡 19』を販売

▲国立劇場理事長時代には劇場運営と舞台芸術の保存・育成という
両面の課題に取り組んだという本書総監修者 犬丸直氏

▲海外特別監修者
ジャン=フランソワ・ジャリージュ氏（フランス）
元フランス国立ギメ東洋美術館館長

▲オランダのユトレヒト中央博物館

▲海外特別監修者
ジュリー・バウィン氏（ベルギー）
ジャポニスムのスペシャリスト
美術史家

▲海外特別監修者
ルート・プリーム氏（オランダ）
カタラインコンヴェント
（カタレイネ修道院博物館）館長

▲ART INTERNATIONAL ZURICH 2014

「日本藝術の創跡」の軌跡

2015　創刊20周年を記念し、前文化庁長官の近藤誠一氏が総監修者として就任

モナコで開催された「Art Monaco 2015」で『日本藝術の創跡 20』を展示販売し、モナコ公国の大公アルベール2 世にも献上

2016　阪神淡路大震災から20年、東日本大震災から5年「ルネサンス・日本――未来を描く多彩な表現――」をテーマに掲げ、震災や災害にあっても力強く制作を続ける芸術家たちの作品を多数収録

2017　東京藝術大学創設130周年
東京藝術大学の節目を記念し、藝大の現役教授を筆頭に多くの識者が同学についての論文を執筆

500年以上の歴史を有する「世界最大の見本市」として名高いフランクフルト・ブックフェアに『日本藝術の創跡22』を展示

2018　2018（平成30）年は明治150年にあたることから、古き文化を残しつつ、新しい表現にも挑んだ芸術繚乱の明治時代について、各界の研究者が寄稿

▲アート・モナコ2015

▲総監修者　近藤誠一氏
前文化庁長官

▲フランクフルト・ブックフェア

2019　レオナルド・ダ・ヴィンチの没後500年を記念して、レオナルドの生涯と彼に影響を受けた後世の芸術家たちを特集

2020　ラファエロ・サンティの没後500年に伴い、ルネサンス期に活躍した芸術家たちをその時代とともに紹介

2021　ピエール=オーギュスト・ルノワール生誕180周年に際し、印象派の歴史と名画の数々を掲載

2022　世紀末芸術の代表格グスタフ・クリムトの生誕160周年を記念して、世紀末派の芸術家たちを特集

Discography　1995 − 2001

肩書、名称は掲載当時のものです。

日本藝術の創跡

— THE HISTORY OF JAPANESE ART—

総監修／植村鷹千代（美術評論家）

執筆者／安井収蔵（美術評論家）
佃堅輔（美術評論家）
長谷川栄（O〈オー〉美術館館長）
田宮文平（書学書道史家）
嶋田三郎、岑東道、司雅泉、日向あき子、水上杏平（各美術評論家）

（1995年度版）

日本藝術の創跡 1996

～ニッポンの芸術からセカイの芸術～
— THE PROGRESSION OF JAPANESE ART —

浮世絵や画帖、陶磁器、装身具、着物など日本の芸術文化が、ジャポニスムなど西欧芸術世界に与えた影響を紹介。

総監修／植村鷹千代（美術評論家）

執筆者／林紀一郎（美術評論家）、大山忠作（日本芸術院会員、日本画家）、
安井収蔵（美術評論家）、鶴岡義雄（日本芸術院会員、洋画家）、室伏哲郎（美術評論家）、蓮田修吾郎（文化勲章、文化功労者、日本芸術院会員、工芸家）、ワシオトシヒコ（美術評論家）、北村治禧（日本芸術院会員、彫刻家）、生尾慶太郎（美術評論家）

（1996年度版）

日本藝術の創跡 1997

～世界芸術の流れと日本芸術～
— JAPANESE ART: IN THE STREAM OF WORLD ART—

世界における芸術文化の発祥とその後の流れを追って、西洋、中近東、中国、日本の芸術への関連と美術史の足跡を紹介。

総監修／植村鷹千代（美術評論家）

執筆者／田中日佐夫（美術史家）、薛永年／張立辰（中国国立中央美術学院教授）、
林紀一郎（美術評論家）、オフィール・シェップス、横江文憲（東京都写真美術館学芸員主任）、マイケル・ダン（美術商）、三木多聞（美術評論家）、石崎浩一郎（美術評論家）、鈴木史樓（書道史家）、任道斌（中国美術学院教授）

（1997年度版）

日本藝術の創跡 1998

～芸術の多様性と浸透～
— ART'S VARIETY AND PERMEATION—

原始時代における芸術的表現の価値観や創成、注文制作市場と主題獲得、市民社会と民衆芸術の到来、そして産業との融合。社会における芸術の多様性を生み出した原因を歴史を追って紹介。

総監修／植村鷹千代（美術評論家）

執筆者／林紀一郎（美術評論家）、三木多聞（美術評論家）、関乃平（中国美術学院教授）、
マイケル・ダン（美術商）、横江文憲（東京都写真美術館学芸員主任）、石崎浩一郎（美術評論家）、米倉守（美術評論家）、ジョセフ・ラペンタ（美術評論家）、
中村溪（東京国立博物館名誉会員、世界評論家連盟会員）、任道斌（中国美術学院教授）

（1998年度版）

日本藝術の創跡 2000

～世紀末の夢、新世紀への波濤～
−OUR DREAMS OF THE 20TH CENTURY WILL BE THE SURGING WAVES OF THE NEXT−

劇的な変貌を遂げた20世紀、芸術史の中でもこれほど短期間のうちに数多くの偉大な芸術家が輩出された世紀はない。20世紀をキーワードに芸術の変貌を説いていく。

その他特集：ー追悼ー植村鷹千代先生の偉業を讃えて

執筆者／川口直宜（美術評論家）、塚田晴可（美術商）、米倉守（美術評論家）、
長谷川智恵子（日動画廊代表取締役副社長）、三木多聞（美術評論家）、
福永重樹（目黒区美術館館長）、田中譲（美術商）、磯部三智夫（美術商）、
春名好重（日本書道史研究者）、北川榮一（住友展望画廊プロデューサー）

（1999･2000年度合併版）

日本藝術の創跡 2001

～100年のかたち～
— VARIOUS FORMS OF ART IN EACH CENTURY—

社会学上の見地からすると芸術と人間とは相対的なものである。時代の波、そしてその区切りを再検証し、新たな時代の道標として芸術の創跡を構築していくことが人類の歴史を創ることになる。原始の時代から、おおよそ100年をひとくくりにその歴史上の芸術の'かたち'を今日まで順を追って紹介。

その他特集：［現代日本の芸術市場］AJCオークションの美術品流通の仕組み

執筆者／川口直宜（美術評論家）、米倉守（美術評論家）、酒井忠康（美術評論家）、
石崎浩一郎（美術評論家）、春名好重（日本書道史研究者）

（2001年度版）

Discography　2002 − 2007

肩書、名称は掲載当時のものです。

日本藝術の創跡 2002

～真実の美術～
— ART BORN FROM REALITY—

美術においての真実とは。歴史や時代は芸術家達に何を描かせたのか、芸術作品が明かす真実、意味とは。実際の出来事や事件を通してその流れを紹介。

（2002年度版）

その他特集：NHK美術番組作製の歴史と仕組み
西松典宏（NHKエデュケーショナル「新日曜美術館」エグゼクティブ・プロデューサー）

執筆者／川口直宜（美術評論家）、米倉守（美術評論家）、三木多聞（美術評論家）、
石崎浩一郎（美術評論家）、春名好重（日本書道史研究者）

日本藝術の創跡 2003

～近・現代アジア美術の風～
— The Wind of Modern and Contemporary Art in Asia —

近代化＝西洋化という概念がアジア諸国を席巻した。だがアジアの芸術家達は逞しくも、独自の芸術表現の研鑽を積み、ナショナルアイデンティティーを築き上げた。芸術的融合あるいは拒絶、折衷、ひとくくりにはできないアジア美術の醍醐味が満載。

（2003年度版）

その他特集：「躍動するアジア美術」　～美術記者が捉えたアジア美術の現在～
早瀬廣美（産経新聞社大阪本社 文化部記者）
中野稔（日本経済新聞社大阪本社 文化グループ記者）
石川健次（毎日新聞社東京本社 学芸部美術記者）
菅原教夫（読売新聞社東京本社 文化部美術記者）

総監修／犬丸直（日本藝術院長　元文化庁長官）

執筆者／川口直宜（美術評論家）、米倉守（美術評論家）、金子量重（アジア民族造形文化研究所所長）、
南嶌宏（美術評論家）、春名好重（日本書道史研究者）

日本藝術の創跡 2004

永劫の美～国宝・重要文化財で繙く日本美術～
The Eternal Glory of Artistic Creation −Japanese Art Discerned through National Treasures and Important Cultural Properties −

我が国における国宝をはじめとする有形文化財の歴史的価値と芸術性を再認識することにより、日本芸術の本流を知り、長年にわたって育まれた日本芸術の美の核心に迫る。

（2004年度版）

その他特集：「国宝」への道程／三輪嘉六（九州国立博物館<仮称>設立準備室長）
復元模造製作を通してみる宝物の特性と価値
飯田剛彦（宮内庁正倉院事務所保存課調査室）

総監修／犬丸直（日本藝術院長　元文化庁長官）

執筆者／川口直宜（美術評論家）、米倉守（美術評論家）、紺野敏文（慶應義塾大学名誉教授）、
関根俊一（帝塚山大学教授）、春名好重（日本書道史研究者）

日本藝術の創跡 2005

美の栄華～プラトン・アカデメイアの系譜、サロン・アカデミーへ～
The Prosperity of Beauty −Important Cultural Properties Academies and Salons : The Genealogy of Plato's Academia −

美術史をひも解く上で、欠かすことの出来ないアカデミーとサロン。そのアカデミーやサロンを舞台にし、芸術家がどのような活動を行ない、歴史を構築してきたかを振り返る。シリーズ第10巻。

（2005年度版）

その他特集：不朽の遺産−ペンシルヴァニア美術アカデミー（1805年～2005年）
スティーブン・メイ（歴史家）
日本のアカデミズム−理想（脳裏）と技術（手技）の統合を求めて
小泉晋弥（茨城大学教授）

執筆者／川口直宜（美術評論家）、米倉守（美術評論家）、高橋幸次（日本大学教授）、
大熊敏之、加藤達成（日本書道文化研究所長）

日本藝術の創跡 2006

～出逢う美術　繋ぐ美術～
— The Encounters of Art ; The Connections of Art —

セザンヌ、ピカソ、ウォーホルなど優れた芸術家には、彼らと共に新たな美術の潮流を生み出そうとした画商、パトロン、評論家などの存在があった。東西美術史を形成した、知られざる人間模様に迫る。

（2006年度版）

その他特集：近代絵画における日本の画商とコレクターたち
瀬木慎一（美術評論家）
ノエル・デザンファンとダリッヂ美術館 ～コレクションの成り立ち～
ポール G.マシューズ（ダリッヂ美術館主任学芸員）

執筆者／細野正信（美術評論家）、米倉守（美術評論家）、小泉晋弥（茨城大学教授）、
山崎剛（金沢美術工芸大学助教授）、西嶋慎一（書道文化研究家）

日本藝術の創跡 2007

～84万日の美術館～
— 840,000days-The Path of Art Museums —

古代エジプトに建設された総合教育機関、ムセイオン。この建物から美術館の歴史が始まった。ルーヴル美術館やメトロポリタン美術館など世界の有名美術館を紹介しつつ、美術館の存在意義や現在の活動を検証する。

（2007年度版）

その他特集：日本の美術館−今日まで、そして明日から
並木誠士（京都工芸繊維大学大学院教授）
21世紀の美術館　異なるものの両立
鈴木博之（東京大学教授）

執筆者／細野正信（美術評論家）、米倉守（美術評論家）、小泉晋弥（茨城大学教授）、
山崎剛（金沢工芸美術大学助教授）、加藤達成（文学博士　社会教育功労者）

Discography　2008 − 2012

肩書、名称は掲載当時のものです。

日本藝術の創跡 2008

美を拓く者たち —美術評論家の創造性—
The Art Critic — the one who seeks beauty

ダ･ヴィンチの偉大な画業を後世に伝えたヴァザーリ、マネの非凡な才能を見いだしたゾラ、若き横山大観や下村観山を指導した岡倉天心……。芸術家の良き理解者であり好敵手として芸術に挑んできた美術評論家の歴史を関係深い芸術家や作品とともに紹介。

その他特集：AICAの歴史と現在／国際美術評論家連盟
国際美術評論家連盟（AICA）と日本
倉林靖（美術評論家）
戦後日本美術批評を振り返って—相互批評と論争の必要性—
針生一郎（国際美術評論家連盟 日本支部会長）

執筆者／原田平作（大阪大学名誉教授）、米倉守（美術評論家）、田中修二（美術史研究者）、尾久彰三（日本民藝館学芸部長）、大野修作（『書法漢学研究』主幹）

（2008年度版）

日本藝術の創跡 2009

異文化への扉　— 創造の交流点 —
Global Gateways — Bridging Cultures Through Art

ナポレオンのエジプト遠征によって流行した東洋趣味、開国を契機に広まりゴッホをはじめとする巨匠たちを魅了したジャポニスム、世界の文明が一堂に会す万国博覧会から世界に高く評価された日本工芸……。いつの時代も芸術は異文化との交流によって育まれてきた。優れた芸術家たちの作品とともに、その制作背景にある様々な交流の「出来事」を紹介。

その他特集：明治時代の日本で～ギメ東洋美術館の祖エミール･ギメの見た日本～
尾本圭子（ギメ東洋美術館研究員）
美の架け橋～外交の顔となったBIOMBO（屏風）～
榊原 悟（群馬県立女子大学教授）

執筆者／島田康寛（美術評論家）、角田拓朗（神奈川県立歴史博物館学芸員）、田中修二（美術史研究家）、鈴木禎宏（お茶の水女子大学准教授）、魚住和晃（神戸大学大学院国際文化学研究科教授）

（2009年度版）

日本藝術の創跡 2010

奇蹟の継承 —美の使徒　修復家たち—
Inheriting Miracles — Restoration through Aesthetic Devotion

1950年に日本が文化財保護法を制定してから60年を迎える今、文化財の「真」価を認識し、最「善」の技術による修復を行ない、「美」しく後世へ継承する美の使徒——修復家たちの仕事と、多様な文化財保護活動の一端を紹介。

その他特集：美術作品修復を仕事として選んだ一家
ニコラ工房
文化財（古美術作品）修復のための伝統技術と科学技術
西川杏太郎（財団法人 美術院国宝修理所理事長　神奈川県立歴史博物館館長）

執筆者／岡 岩太郎（一般社団法人 国宝修理装潢師連盟理事長）、森 直義（東北芸術工科大学教授）、小野寺久幸（東大寺大仏師）、加藤 寛（鶴見大学文学部文化財学科教授）、吉野敏武（元 宮内庁書陵部修補師長）

（2010年度版）

日本藝術の創跡 16

名作からのメッセージ —芸術の秘奥を旅して—
Message from the classics — Journey through the secret world of art —

メッセージ——それは思いを伝えること。伝えたいモノやコトを“表現”し、形を変えて残すこと。過去の表現者は現代にいったいどのような“思い”を、メッセージとして作品に込めて残したのか。洋の東西にわたり研究者たちが聞き取った名作の声に耳を傾けることで、私たちは創造の未来を拓く道標を得ることができる。多岐の分野に及ぶ芸術作品が宿したメッセージを手がかりに、芸術の秘奥へと旅する。

巻頭評論 Ⅰ　写楽は能役者だ
内田 千鶴子（浮世絵研究家）

巻頭評論 Ⅱ　ヨハネス･フェルメールと黄金時代のオランダ絵画
ルート･プリーム　（カタラインコンヴェント（カタレイネ修道院博物館）館長）

（2011年度版）

その他評論：春日曼荼羅を通して、近世絵画を考える/守屋正彦（筑波大学大学院教授　元山梨県立美術館学芸課長）
没後100年記念　美に殉じた奇才、青木繁からの遺言—芸術における完成と未完成—／植野健造（福岡大学人文学部教授　元石橋財団石橋美術館学芸員）
円空の造形—<母の鎮魂の造形>—／長谷川公茂（円空学会理事長）、
東大寺大仏の膝下から出土の大刀／米田雄介（神戸女子大学名誉教授　元宮内庁正倉院事務所長）、
本阿弥光悦の書—光悦様式の創造をめぐって—／増田 孝（愛知文教大学学長　書跡史研究家）

追 悼 特 集　志をもって生きる —— Tadashi Inumaru
行雲流水八十余年 —— 犬丸 直氏の足跡

日本藝術の創跡 17

美の再発見—日本—
Reexploring the beauty — NIPPON —

鎖国以前から日本が各国と密接な関係にあったことを、時に芸術作品や文化遺産は教えてくれる。本書の巻頭評論では、約350年前の家族の肖像画に、オランダ人と日本人の間に生まれた女性が描かれた経緯や、両国の文化的関係に及んだ論考をはじめ、様々な角度から日本の「美」に迫った。

巻頭評論 Ⅰ　アンス･ド･ウィニワテールのコレクションに見る日本の美
ジュリー･バウィン　リエージュ大学准教授

巻頭評論 Ⅱ　平戸からファン･ゴッホまで
1600年から1900年までのオランダ=日本の文化的関係
ルート･プリーム　（カタラインコンヴェント〈〉カタレイネ修道院博物館館長）

（2012年度版）

その他評論：日本の美に出会う時／宮島 新一（元山形大学教授　元九州国立博物館副館長）、
知られざる歴史の記憶 国宝慶長遣欧使節関係資料／濱田 直嗣（宮城県慶長使節船ミュージアム館長）、
和様彫刻の最高峰 —平等院鳳凰堂阿弥陀如来像—／根立 研介（京都大学大学院文学研究科教授）、
日本の現代陶芸を考える —その成立とキーポイント—／金子 賢治（茨城県陶芸美術館長　多治見市美濃焼ミュージアム館長）、
漢字伝来から仮名書芸術への昇華 —記紀との接点を通して—／森岡 隆（筑波大学大学院教授）

Discography　2013 − 2016

肩書、名称は掲載当時のものです。

日本藝術の創跡 18

20世紀が見た夢 ―新しき表現の開花―
The Dream of the 20th Century ― Florescence of New Expressions ―

フォーヴィスムやキュビスムをはじめ美術界に新境地を開く代表的な現代美術運動の数々が生まれた20世紀初頭に光を当て、その誕生の背景や日本に与えた影響を多彩なアーティストの作品を通して検証し、今日につながる潮流の源を辿る。

（2013年度版）

巻頭評論 Ⅰ　新しい時代の到来「洋画と日本美術」―その影響と展開―
神林恒道（新潟市會津八一記念館館長　大阪大学名誉教授）

巻頭評論 Ⅱ　モダニズム時代における新世界の構築
―村山知義、ファン･ドースブルフ、そして濱田増治―
ルート･プリーム（カタラインコンヴェント（カタレイネ修道院博物館）館長）

その他評論：島田康寛（神戸市立小磯記念美術館館長）、原田光（岩手県立美術館館長）、
田中修二（大分大学教育福祉科学部准教授）、榎本徹（岐阜県現代陶芸美術館館長）、
比田井和子（天来書院社長、元 佐久市立天来記念館館長）

日本藝術の創跡 19

芸術家のアトリエ ―閃きと創造の楽園―
Ateliers of the artists ― Paradise of the inspirations and the creations ―

芸術家にとって神聖な空間である「アトリエ」。そこには制作道具や愛用の文物、趣味の楽器などインスピレーションを喚起させる様々な品々がひしめいている。芸術家と作品の物語が隠された秘密の楽園を訪ね、その閃きの原点や苦悩、歓喜の軌跡を追う。

（2014年度版）

巻頭特集 Ⅰ　パウル･クレーの楽園（アトリエ）

巻頭特集 Ⅱ　内実の閃き
―細川家･永青文庫コレクションから
竹内 順一（永青文庫館長）

その他評論：竹内順一（永青文庫館長）、髙橋美奈子（山種美術館学芸部長）、
尾碕眞人（京都市美術館学芸課長）、毛利伊知郎（三重県立美術館館長）、
杉山享司（日本民藝館学芸部長）、古谷 稔（東京国立博物館名誉館員）

日本藝術の創跡 20

芸術を知る20の鍵
The 20 keys of Art

1995年に創刊された『日本藝術の創跡』は関係各所のご協力を得て創刊20年を迎えた。記念すべき第20巻は、新旧の読者のためにも過去のテーマを20のキーワードで紹介。20年間のアートの潮流をより深く知るための鍵を使い、未来のアート界への扉を開く。

（2015年度版）

巻頭特集 Ⅰ　芸術を知る20の鍵

巻頭特集 Ⅱ　アムステルダム国立美術館の改修工事について
―時間と美の感覚を伝えるための総合的アプローチ―
ルート･プリーム（ブルージュ国立美術館 主任学芸員長）

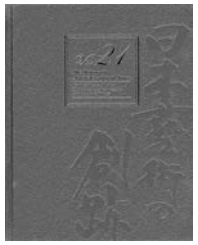
巻頭特集 Ⅲ　―現存する世界最古の東洋美術雑誌―
『國華』120年の歩み
河野元昭（京都美術工芸大学学長･東京大学名誉教授･秋田県立近代美術館名誉館長）

その他評論：狩野博幸（同志社大学文化情報学部教授･美術評論家）、松本誠一（佐賀県立博物館･佐賀県立美術館副館長）、
浅井和春（青山学院大学文学部、比較芸術学科教授）、矢部良明（人間国宝美術館館長）、
藤本孝一（公益財団法人冷泉家時雨亭文庫調査主任）

日本藝術の創跡 21

「ルネサンス･日本―未来を描く多彩な表現―」
Renaissance in Japan ― The diversity of expression painting our future―

阪神淡路大震災から20年、東日本大震災から5年。また同年には熊本地震も発生した。人々の生活や芸術文化を守り、連綿と伝えることの大切さに気づいた今、困難に立ち向かい、明るい未来や希望を渇望し、芸術や文化を創造した先人たちの軌跡を紹介する。



（2016年度版）

巻頭特集　「文化財と日本の未来―文化を守り伝える力―」
三輪嘉六（NPO 法人文化財保存支援機構理事長）

その他評論：吉田俊英（美術史家）、栗原敦（宮沢賢治学会イーハトーブセンター代表理事）、
田中修二（大分大学教育学部教授）、木田拓也（東京国立近代美術館工芸課主任研究員）、
加藤泰弘（東京学芸大学教授）

Discography　2017 − 2022

肩書、名称は掲載当時のものです。

日本藝術の創跡 22

東京藝術大学創設130周年　日本の「美」の源流をたずねて
Tokyo University of the Arts 130th Anniversary
— A Look at the Origins of the Aesthetic in Japan

横山大観や青木繁、六角紫水をはじめとする巨匠を多数輩出した東京藝術大学は近年、海外大学との交流によっても活動範囲を世界中へ広げている。前身の東京美術学校創設から数えて130 年を迎えた同学の歴史を紹介するとともに、今日活躍する現代作家たちの作品を多数収録。

巻頭特集　「東京芸術大学の130年──日本から世界へ」
佐藤道信（東京藝術大学教授）

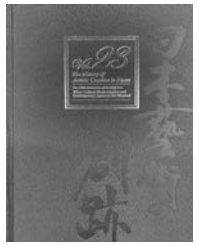
その他評論：小泉晋弥（茨城大学教育学部教授）、木下長宏（元横浜国立大学教授）、
藤井 明（小平市平櫛田中彫刻美術館係長）、樋田豊郎（東京都庭園美術館館長）、
萱のり子（東京学芸大学教授）

（2017年度版）

日本藝術の創跡 23

明治150年 文明開化と近代日本芸術の繚乱
The 150th Anniversary of the Meiji Era:
When Cultural Modernization and Contemporary Japanese Art Bloomed

明治時代──。250年間の鎖国から解き放たれた先達は、海外の情報を受容することで文明開化し近代化へと向かう。彼らは近代日本美術を形成し、今日の日本人芸術家たちが備える表現力の基礎を築いた。文化芸術にとって様々な変革をもたらした和魂洋才の時代に迫る。



巻頭特集　「明治の美術」
山野英嗣（和歌山県立近代美術館館長）

その他評論：岡部昌幸（群馬県立近代美術館館長）、
塩谷純（東京文化財研究所文化財情報資料部近･現代視覚芸術研究室長）、
村田理如（清水三年坂美術館館長）、平田礼太（愛知県美術館主任学芸員）、
鍋島稲子（台東区立書道博物館主任研究員）

（2018年度版）

日本藝術の創跡 24

没後500 年記念 レオナルド･ダ･ヴィンチ ―偉大なるその万能―
Leonardo da Vinci, the Great Multitudinal Talent
－500 Years Since His Death－

人類の至宝《モナ･リザ》や《最後の晩餐》を描いた芸術家レオナルド･ダ･ヴィンチの才能は芸術に留まらず、医学や科学など多方面に及んだ。この不世出の天才芸術家の没後500年に際し、その生涯とともに、類い稀な想像力から生み出された代表作の数々を掲載。

巻頭特集　「没後500 年記念 レオナルド･ダ･ヴィンチ ―偉大なるその万能―」

（2019年度版）

日本藝術の創跡 25

ラファエロ･サンティ没後500年
ルネサンス〈再生〉を彩った天才たち ―新しい様式の開花と芸術家の誕生―
500 Years Since the Death of Raffaello
The Geniuses who Colored the Renaissance (Rebirth): the Blossoming of New Styles and the Emergence of Artists

古代ギリシャ･ローマ文化の復興という形式をとり、西ヨーロッパを中心に広がった文化革新運動が、「復活」や「再生」を意味する「ルネサンス」。その代表格ラファエロ･サンティの没後500年を記念し、ここではラファエロをはじめとするルネサンス芸術を紹介。

巻頭特集　「ラファエロ･サンティ没後500年
ルネサンス〈再生〉を彩った天才たち
―新しい様式の開花と芸術家の誕生―」

（2020年度版）

日本藝術の創跡 26

ピエール＝オーギュスト･ルノワール生誕180周年
印象派―光と色彩をつかまえた画家たち―
Pierre-Auguste Renoir 180th Anniversary
Impressionists –Paintings that Capture Light and Color–

市井の人々の暮らしや自然に焦点を当て、光と色彩を感受性豊かに捉えた印象派画家たち。新たな表現様式を追求し続け、古典主義で写実的であった芸術を市民に身近なものへと昇華させた。ピエール＝オーギュスト･ルノワール生誕180周年を記念し、印象派画家たちの作品誕生に至るまでの軌跡を辿る。

巻頭特集　「印象派―光と色彩をつかまえた画家たち―」

（2021年度版）

日本藝術の創跡 27

グスタフ･クリムト生誕160周年
世紀末芸術―心のなかに美をみる探求者たち―
160th Anniversary of Gustav Klimt's Birth
Fin de Siècle Art :The Pursuers of Beauty within the Mind

19世紀末ヨーロッパ、科学技術の飛躍的な進歩により発達した蒸気機関車や船に運ばれ、戸外の美しい景観を求めた印象派に対し、不安や苦悩など人間の内面世界を退廃的で神秘的に描写した世紀末派の画家たち。本年はその中心人物であるグスタフ･クリムトの生誕160周年を記念して、美しくも妖しい世紀末芸術の作品群に焦点をあてる。

巻頭特集　「世紀末芸術―心のなかに美をみる探求者たち―」

（2022年度版）

毎年、さまざまな機関より届く感謝の気持ち

『日本藝術の創跡』はこれまでに世界の著名美術館や博物館、国内外の各国大使館や図書館などへ収蔵されてきました。
こうした寄贈に対し寄せられた、多数のお礼状の一部をご紹介いたします。

アテネ国立考古学博物館

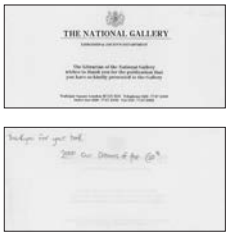
ウフィツィ美術館

オルセー美術館

フランス国立ギメ東洋美術館

大英博物館

テイトギャラリー



ナショナル・ギャラリー・ロンドン

グッゲンハイム美術館

バチカン美術館

パリ市立近代美術館

ボストン美術館

ポール・ゲッティ美術館

クイーンエリザベスII世号

在日フランス大使館文化部

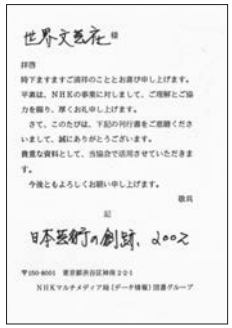
スイス大使館

ドイツ連邦共和国大使館

南アフリカ共和国大使館

ローマ法王庁大使館

英国大使館



NHKマルチメディア局